



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA SOUTH-WEST

# 広島西南ロータリークラブ会報

CELEBRATE ROTARY ~ ロータリーを祝おう ~

会長/濱田 公麿 幹事/山下 哲夫 例会場/広島全日空ホテル 広島市中区中町 7-20  
 副会長/中村 富洋 副幹事/平石 雅史 事務局/広島市中区基町 6-78 リーガロイヤルホテル広島 13F  
 会報資料委員長/山下 幸彦

## ■ 会長時間 (濱田会長)

2月の理事会でご承認いただき、国旗とロータリー旗を新調いたしました。お蔭で会場が一段と明るくなった様です。後程、中村副会長に日の丸について卓話をお願いしております。

昨日、西 RC 創立 35 周年記念式典及び祝賀会が、当全日空ホテルで開催され、クラブを代表して山下幹事とお祝いに参りました。我がクラブ創立に、種々ご指導頂きました先輩の方々と久しく友好を深め、新たためて親クラブの威厳を感じさせられました。

さて、今日はスマイルについてお話しします。スマイルは、ロータリーの奉仕として大事な要であることは、皆様もご承知のことと思います。特に、S.A.A(会場監督)委員会の方々には、奉仕活動の運営基金(年間180~200万の予算)集めに種々ご苦労頂き、又、会員の皆様のご協力に感謝致しております。

スマイルとは、正確にはスマイルボックスと云われ、又はニコニコ箱とも云われております。スマイルボックスの発祥は、1936年大阪ロータリークラブで、初めて実施されたロータリー特有のものであり、例会場で会員が、自由意思で善意の寄付金を

入れる箱のことです。ロータリーは、I Serve が元であるといわれます。奉仕活動への基金として、自己意志による金一封(金額の大小に関係なく)こそが、正に I Serve と考えます。クラブ運営には一切使われず、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕の部門等、すべて社会奉仕に回ります。そこには、個人個人の懐からお金を出す行為には少々痛みを感じます。しかし、痛みこそが I Serve であり、恵まれない人々の心に奉仕の灯を燈すのではないのでしょうか。

スマイルの重要なことは、自己申告に意義があります。お金と一緒に書いて出す一行の文章、その内容により笑いの渦がわき、例会を明るく楽しい雰囲気に変えてくれます。残り4ヶ月足らずです。スマイルの重要性と自己申告への理解を深め、明るくて笑いのあるクラブ例会にご協力頂き、新たためて心にスマイルの灯を燈して、実りある奉仕活動により、ロータリー100周年を祝いましょう。

今月結婚記念日をお迎える会員を代表し、金森会員よりご挨拶を頂きました。

## ■ 幹事会務報告

例会変更のお知らせ  
 広島北ロータリークラブ

## 職場訪問例会

とき 04月07日(木) 12:30~  
 ところ 広島市森林公園

## ■ 出席報告

本日 (第892回例会 03月08日・火曜日)  
 会員数 65名 出席者 52名  
 欠席者 13名 ご来客 4名  
 ご来賓 0名 ゲスト 0名  
 前々回(第890回例会 02月22日・火曜日)  
 会員数 65名 免除者 5名  
 出席者 39名 欠席者 21名  
 メ・キャップ 20名 出席率 98.33%

## ■ 委員会報告

広報雑誌委員会  
 林本委員長より、「ロータリーの友」の記事の紹介がありました。

## ■ 同好会報告

譚々会(野球)  
 3月25日(金)に西ロータリークラブさんと合同練習を行いますので、ご参加ください。

## ■ スマイルボックス

ご結婚記念月おめでとうございます。  
 森会員、大道会員、金森会員、濱田会員  
 本日はエレベーターの日です。木村強会員のご出宝をお願い致します。  
 本日はお土産の日です。お土産といえば旅。旅といえばホテル。という事で、先小山会員、吉田会員、今井会員のご出宝をお願い致します。

## ■ 新しい旗に寄せて

中村 富洋 副会長

前面に掲げている日の丸とロータリー旗が新しくなりました。新しい旗になりましたのを機会に今日貴重なお時間を頂戴することになりました。

私の若い時代の経験の中で、日の丸と大きな出会いがありました。また、ロータリークラブに入れていただいてから、この旗から大きな感動をいただいた、その話です。

もう36年も前になりますが、私がまだ三菱重工の社員だったころ、生産能力年間20,000トン、FOB(船積み渡し)契約で22億円の塩ビの可塑剤のプラントを、当時共産党一党独裁国家であったチェコスロバキヤへ輸出する商

本年度会長テーマ

「心に奉仕の<sup>あかり</sup>灯を燈そう」

<http://hiroshima.southwest.rotary2710.net>

談が決まりました。プラントの建設が終わりかけた頃、基本設計を担当していた私が、試運転指導員としてチェコの現地に派遣されました。

現地は首都プラハから北西へ100kmのモストという地方都市でした。チェコの冬は-25 くらいになりますので、その時期に試運転に入ると水系の配管が凍ってスタートできませんので、冬にならないうちに保証運転をやって引き渡してしまおうというのが、日本側の計画でした。一日も早く日本へ帰ろうというのを合言葉に、皆必死になって頑張っていたそんな夏の日に、大きな事件が起こります。



世に言う「プラハの春」事件です。忘れもしません、昭和43年8月21日、朝起きると宿舎の周りはソ連製の戦車で囲まれていて、何が起きたのか全く見当がつかず。電話、テレックス、ラジオ、テレビなど一切の情報が切断され、道路は戦車で封鎖され、宿舎から一步も出ることが出来ません。もちろん何が起こったのか、危険か安全かも分かりません。いろいろ通信網をいじくっていたら、完全に切断されたと思っていた通信網のうち、国際テレックスだけが生きていました。それを使って、早速日商のウイーン事務所に私たちの現状を連絡したところ、先方から詳しいチェコ国内の状況が知らされてきました。事件の全容と推移が明らかになるとともに危険を感じました。

ウイーンからはモストの日本人全員が無事であることが日本の各企業（三菱重工、三菱化成、日本製鋼、島津製作所、横河電機）にも連絡されたのはありがたかったです。事件発生から6日が経っていました。

留まるのか、脱出するのか多数決を行い、1票差で西側の国へ脱出することが決断されました。日商のウイーン事務所に脱出希望の連絡を入れたところ、早速、大使館から脱出用のバスを手配する旨の連絡が入ってきました。大使館から回されたバスは、当時としては新しいものでした。安全に脱出するにはどうすればよいか、いろいろ議論しましたが、行き先も方法も運転手に任せよう、ただ、乗員が全員日本人であることを車外から分かるように示めそうということになり、結局バスに日の丸をつけることになりました。持参していた日の丸をフロントガラスの下にテープで貼り付け、両サイドの窓の下には片面4枚ずつの手書きの日の丸を張り、リヤウインドウの下に一回り大きい手書きの日の丸を張って、日の丸車にしました。

持参するトランクは各自1個に限定され、野宿を想定して数日は食べられるだけの保存食と寒さを防ぐ衣類のみを持っていくようにとの指示に従ってバスに乗り込みました。1968年（昭和43年）8月28日のことです。

バスは走り始めたが、日の丸をつけているにもかかわらず、バスの後ろから大型の戦車が攻撃用の大砲の銃口をバスに向けてバスと同じスピードについて来るではありませんか。一発放たれたら我々日本人全員の命はありません。度胸を決めて戦車の通れないような山道に入り込みました。大使館の配慮で運転手が地理に詳しいチェコ人であったことは非常に助かりました。山道に入ってから戦車の追走は無くなりました。山中は平穏でしたが、平野部を下りるとワルシャワ条約軍のキャンプがあちこちにあると、戦車、

装甲車、野戦用の武器が無数に置いてあり、迷彩服を着た兵士がたむろしています。2時間ほど走って最初の検問がありました。銃を持ったワルシャワ条約軍の兵士が乗り込んできてロシア語のような言語で運転手と何かしゃべっていましたが、日の丸どおり全部日本人であることがわかって、事なきを得ました。途中計4回の検問がありましたが、全てパスさせてくれました。翌日の夜、脱出者19名が、脱出成功の祝賀会を開きました。その席でバスの前につけた本物の日の丸を上座に掲げ、全員が感謝と誇りをささげました。その後、全員でその旗にメッセージとサインをしました。これがそのときの写真です。

私は子供のときから日の丸の魂を両親から教え込まれ、誇りを持つよう教えられておりましたが、この事件以来、私は日の丸に対して日本人としての誇りと敬意を深く持つようになりました。祝日には自宅の玄関に必ず日の丸を掲げています。

残念ながら日本では日の丸を掲揚している所が非常に少ないのは極めて情けないです。海外旅行をしたとき、外国では役所、学校、企業はもちろん、ちょっとした商店までが自国の国旗を掲げています。日本でももっと日の丸を掲げたいと思います。日の丸掲揚を促進させることも日本のロータリーアンの一つの務めでもあるのではないかと思います。

続いてロータリー旗のお話です。

私は、私服で旅行するときにも必ずロータリーバッジをつけていきます。家族でケニアへ旅行したときのことで。チューリッヒでアフリカ便に乗り換えた機内で、インド系のケニア人が話しかけてきました。この飛行機便に日本人が乗るのはどうも珍しいようです。いろいろ話しているうちに、私がつけているロータリーバッジが目に入り、ロータリークラブの話に変わりました。

彼はナイロビロータリークラブのメンバーで当時の幹事さんでしたが、いろんな奉仕活動の会話になり、彼らが最も力を入れている青少年育成問題を熱心に話し始めました。下りる直前、よかったらナイロビロータリークラブにメーキャップに来ないかと誘われ、数日後に家内を連れてメーキャップに行きました。彼は幹事であって忙しいにもかかわらず、非常に歓迎してくれ、よく面倒を見てくれました。100間都市にロータリークラブが一つしかありません。日本人の会員もおりませんし、お客さんとしてはとても珍しかったのでしょ。多くのメンバーを紹介してくれました。とても熱心なロータリアンばかりで、その中には今でも文通の続いている人がいます。

例会場は一段高いスピーチ席が設けてあり、その奥にこの旗と全く同じロータリー旗（下のロータリー名が違うだけ）がケニアの国旗と一緒に掲げてありました。世界どこへ行ってもマークは同じ、ロータリアンの目指すものも心も奉仕も一緒というのが胸にジーンと伝わって来ました。

不思議なもので、ロータリアンというのは、会った瞬間に長年の知己のように話が弾みます。ロータリーの話題になると熱がこもります。それもこれもロータリーのこの旗の、このマークが示すように世界中どこでも国籍や人種や言葉が違っても皆家族なんだということを痛感します。

本日は私の「日の丸」、「ロータリー旗」への思いを聞いていただき、本当に有難うございました。

本年度会長テーマ

「心に奉仕の<sup>あかり</sup>灯を燈そう」

<http://hiroshima.southwest.rotary2710.net>